

NCGM メディアセミナー

日時:2014年3月17日(月) 19時~20時

会場:国立国際医療研究センター国際医療協力研修センター4階 セミナー3,4

今回の話題 結核(3月24日は世界結核デー)

話題提供者

「日本と世界の結核」: 森野 英里子 呼吸器内科・感染症班医師

「都市の結核、未来像」: 高崎 仁 呼吸器内科・国際感染症センター医師

話題1 「日本と世界の結核」: 森野 英里子

用語や話題の解説

<結核とは>

結核は古代から人類を脅かし続けている感染症の一つです。結核は主な宿主が人間に限定されているため理論上は撲滅可能な疾患ですが、未だ世界で毎年860万人が結核を発病し、結核によって死亡する人が推定130万人います。さらに結核に感染している人は20億人(世界人口の約1/3)に及びます。世界的視野に立つと、インドや中国、南部アフリカなどに患者さんが圧倒的に多いですが、日本は先進国の中では結核罹患率が高い国であり、結核は決して稀な疾患ではありません。 WHO2013report

<日本の結核事情>

高齢者結核と都市型結核が大きな特徴です。新規結核患者の約2/3は65歳以上の方で、結核の大流行期を生きた人々がその時代に結核に感染し、加齢などの免疫力低下に伴い発病するという結核が多いのが特徴です。また、大阪や東京といった大都市に患者さんが多い傾向にあり、人口密集や職場環境、就学形態などが影響し、集団感染事例や若い世代にも結核の感染・発病が見られます。

結核は治せる病気であり、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けることが大切です。これらは患者さん自身にとって重要であるだけでなく、感染伝播を防ぐ意味で周囲の方にとっても大切です。この世界結核デーの機に、ぜひ結核という疾患を思い返し、現状や課題、医療機関を受診すべきサインなど確認して頂ければと思います。



話題2 「都市の結核、未来像」：高崎 仁 呼吸器内科・国際感染症センター医師

用語や話題の解説 <都市型結核の視点から>

空気感染；(排菌している)肺結核の人が咳をすると、結核菌を含む微粒子(飛沫核)が空気中を漂い、それを吸い込んだ人が感染する。狭い空間で長時間過ごす場合、何度も咳をする人がいたら要注意(カラオケ、雀荘、ネットカフェ、パチンコ、24時間営業のサウナ、深夜のファーストフード店など)。

罹患率；一年間で新たに結核を発病した人の数(人口10万人あたり)のこと。地域における結核の蔓延度の指標で、10未満が目標。平成24年の日本の結核罹患率は16.7で、ゆっくりと減少している。地域によるバラつきが大きく、長野県では9.5、東京都は21.7、新宿区に限ると48.2。ちなみに、米国は3.4、南アフリカ≒1,000。

推定既感染率；世界人口の約3分の1(20億人以上)は結核に感染している(発病するのはごく一部)。1950年、日本人の約半分が結核に感染していた。現在、80歳以上の超高齢者の60%以上は結核に感染したことがあると推定されている。

多剤耐性結核；薬が効かない結核菌がいる。日本では稀だが、海外には、特に性質の悪い多剤耐性結核が蔓延している地域もある。海外で耐性菌に感染した人が国内で発病(輸入結核症)すると、国内で蔓延する危険がある。中途半端な治療や服薬中断によって耐性化することもある。

外国人・海外出生者；20歳台の結核発病者の約30%が外国人。地域によっては、20歳台の半数以上。既に発病した状態で来日(航空機内感染)、母国で感染し入国後に発病、日本であらたに感染し発病、など様々。来日後の過酷な衣食住・労働環境が発病・悪化の危険因子かもしれない。多剤耐性結核が持ち込まれる危険(新興感染症の一面あり)、日本で多数に感染させる危険(再興感染症の一面あり)を認識する必要あり。

ホームレス等；定住しないことが多く、医療へのアクセスが不十分のことが多く、対策が困難である。結核の治療期間は、最低6か月間の毎日服薬が原則だが、根気よく毎日服薬していることを確認(DOTS)することが困難な人の中には、途中で中断してしまうことがある。

集団感染；病院、塾、学校、時々ニュースで取り上げられる集団感染事例の感染源は、長引く頑固な咳以外の症状に乏しく、どうにか仕事が続けられる状態にある元来健康な人が多い。

喉頭結核、気管・気管支結核；特殊だが決して稀ではない結核の一病型。激しい咳嗽とともに大量に排菌するが、胸部レントゲン写真では専門家でもわからないことがある。若い女性の頑固な咳嗽に対して、咳喘息と誤診され、数か月にわたって排菌し、集団感染を招くことがある。



NCGMメディアセミナーは、当センターが取り組む健康・医療の課題を広く共有するために開催しています。専門家からの情報収集、不明事項の確認の場、また、医療に関わる専門家メディアの方の質問から学び、視野を広げる場とすることが目的です。

今後もNCGMメディアセミナーを開催する予定ですので、報道機関の皆様のご参加をお待ちしております。